

第33回 日韓中ジュニア交流競技会

令和7年8月23日(土)~29日(金)
中国 内モンゴル自治区 包頭市オリンピックセンター室外テニスコート

【選手団】

団長:岡本 直哉(全国高体連テニス専門部 東海地区常任委員)

男子監督:宇野 敦也(大分県立大分舞鶴高等学校)

女子監督:田中 希武(近畿大学付属和歌山高等学校)

選手

内田 真翔(柳川) 義基 耀(四日市工) 太田 周(大分舞鶴) 篠崎 勇仁(法政二)

川崎このは(野田学園) 後藤 七心(大商学園) 石田 実莉(神戸野田) 杉山 優那(目黒日大)



【包頭市について】



包頭市(パオトウ市)は、中華人民共和国内モンゴル自治区に位置しています。南は黄河に隣接し、東には河套平野、西には土默川平野が広がっています。海拔は1200~2000mです。

名称の由来

モンゴル語で「鹿のいる場所」を意味し、中国語では「鹿城」とも呼ばれています。

産業

鉄鋼業が盛んで、「草原の鋼城」と呼ばれています。レアースの主要な産地であり、「レアースの里」としても世界的に知られています。

【日程】

8月 21 日 NTC 事前合宿

試合球の odea の passion の感覚を確かめる ダブルスのペアを試す

夕食後のミーティング 男女キャップテン(篠崎と川崎)から一言

8月 22 日 合宿2日目、結団式、指導者ミーティング

8月 23 日 移動日

8時40分 羽田発 22時50分包頭空港到着 23時30分ホテル着

8月 24 日 監督会議、会場練習及び開会式

8時~ 監督者会議 12時~ 会場練習 17時00分~18時15分 開会式

8月 25 日 試合初日

男子:日本0-5中国 女子:日本 2—3 中国 10時00分試合開始 19時45分試合終了

8月 26 日 試合2日目

男子:日本2-3 韓国 女子:日本 3-2 韓国 10時00分 試合開始 16時30分 試合終了

ショートセットマッチ ※13時00分前に降雨のため、室内クレーに移動

8月 27 日 試合3日目

男子:日本5-0包頭市 女子:日本 5-0 包頭市 10時00分 試合開始 14時20分終了。

ウォームアップ開始時刻になってもオフィシャルボードには何も掲示されず、レフェリーの姿も見えない
試合後、ハードコートで全日本ジュニアに向けて調整

19時30分~21時00分 フレンドシップ交流会

8月 28 日 文化探訪 ミーティング

8月 29 日 最終日

10時15分包頭空港発 22:30 羽田空港着 解散

第33回日韓中ジュニア交流競技会での学び

テニス競技 総監督 岡本直哉

はじめに、競技会を企画・運営してくださった森岡団長をはじめとした日本スポーツ協会の皆様、参加申し込みや事前合宿でお世話になった日本テニス協会の丸山様、染谷様、来年度の開催に向けて準備をしてくださっている佐賀県スポーツ協会の方々、快く選手を送り出してくださった顧問の先生やコーチ、保護者の皆様、ウエアを準備してくださったテニスメーカー各社に心から感謝を申し上げます。



テニスチームは、開催地の内モンゴル包頭市へ向かう前に、東京のNTCで事前合宿を行いました。素晴らしい環境で、集中した練習ができたことは勿論、選手同士や、選手と指導者の距離が近いものとなり、集団としての一体感を醸成するうえで、非常に有効な時間でした。可能な限り今後も継続していくべきものだと思います。

翌日は羽田空港に隣接するホテルに全ての競技が集まり、日の丸がついたウエアを受け取り、全員が日本代表としての自覚がより一層強いものになりました。包頭市への移動は飛行機の遅延で予定よりも時間がかかりましたが、地元は大変な歓迎ぶりで、改めて自分たちがどういう立場でこの場所にいるのかが確認できました。

翌朝、ディレクター、レフェリー、各チーム監督でのミーティングが行われ、試合方式等を確認しました。会場は、新設のハードコート7面ですが、試合は1対戦1面で行うということでした。3セットマッチ5試合を1面進行すると、終了時間がかなり遅くなることが予想されるため、7面全てを使って進行することを提案しましたが、受け入れられず、かろうじて勝敗決定後に入る試合で、両者が合意すれば使用面数を増やすということになりました。試合当日の様子から、主審ができる人の数が少ないために使用面数を増やせないことが見て取れました。開催地は数年前に決定することなので、その期間を使い、審判や選手を育てたり、施設を整えたりすることができるはずですし、そうすることが開催地を固定せず、様々な都市で行っている意義だと考えると、非常に残念な対応と言わざるをえませんでした。

大会初日の中国戦は、相手の体格がよく、パワフルなショットに押し込まれる場面が多く見られました。その対応として、こちらの出力を上げようとした時にミスが出る展開が続き、惜敗でした。終了時刻が予想通り遅くなつたため、他競技とのバランスや夕食時間のことを伝え、再度改善を求めた結果、翌日からの試合方式はショートセットになりました。選手にとっては戦い方が変わる急な変更でしたが、集中を切らさず、うまく対応してくれたと思います。改めて、様々な経験をしてきている選手の強さを感じました。そうした中行われた韓国戦は、雨天のため途中から屋内クレーコートを使用しました。韓国選手は、フィジカルが強く、こちらが深いボールを打っても押し込めない展開でしたが、その中でも勝利をもぎ取ってくる選手に頼もしさを感じました。次の包頭市との対戦は、実力差があり、ほぼゲームを落とさない展開で男女とも勝利することができました。

最終日の閉会式では、テニス選手団が、ステージ上でパフォーマンスを行いました。時間に余裕のない中、準備を行い、周囲の人たちを楽しませてくれた選手達のバイタリティーには感心しました。こうした経験を通じて、選手としても人としても魅力的に成長していってもらうことを願っています。

結びに、今回の代表選手のコート内外での立ち振る舞いを見て、日本の選手育成は他国に引けを取らないと感じました。部活動という他国にはないシステムの中で活動している選手が大半でしたが、テニスの技術面はもちろん、交流事業の目的をよく理解し、他国の選手と積極的に意思の疎通をはかること、試合中劣勢であっても突破口を探し続けること、通訳ボランティアやホテルスタッフなど自分を支えてくれる人への感謝を表現することができました。昨今、部活動について負の面が取り上げられていますが、大半の指導者は、二度とないジュニア時代の大切さを自覚しながら、選手と真剣に向き合っていることが伝わってきました。もちろんこれはテニス競技に限ったことではなく、今回活動を共にした他競技についても当てはまることがあります。「チームジャパン」として日本選手団全員が一つのホテルに滞在し、その中で他競技の指導者やトップ選手と交流できたことはこれまでの自身の指導を振り返り、前に進んでいくための本当に大きな財産だったと感じています。今後も日韓中ジュニア交流競技会が継続、発展し、多くの人の学びの場であり続けることを心から願っています。

第33回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

男子監督 宇野敦也

はじめに本競技会に参加する機会を与えてくださった日本スポーツ協会の皆様、全国高体連テニス専門部の皆様、総監督として様々な調整をしてくださった岡本先生、女子監督の田中先生に感謝を申し上げます。普段はライバルとして対戦をする選手たちですが、本競技会では日の丸を背負いチームとなること、また国別対抗戦に参加できたことは間違いなく今後の糧になる経験だったと感じています。

初日は日本テニス協会のご厚意により NTC で事前合宿を行わせていただきました。ここでは主にダブルスのペアリングを確認し、選手の意見を聞きながら複数パターンのペアリングを試しました。試合進行方法がこの時点でははっきりと分かっていなかったため状況に応じてペアリングが変更することがあることを伝え、練習に臨みました。練習の際には自然と声を掛け合う様子が見られ、各選手の意識の高さを感じることができたのと同時に NTC ではプロ選手も練習を行っていたため、プロ選手がどのように練習をしているか、その姿を見ながら練習することができたのは緊張感もあり非常に良い調整となりました。



1日目 VS 中国 0-5 負け(シングルス 0-4 ダブルス 0-1)

ITF ランキング上位の選手を擁する中国チームとの対戦は接戦にもつれる場面はありましたか、勝ち星を挙げることはできませんでした。特に S1 で出場した義基は 1st セットをタイブレークで取って、流れが来そうな場面もありましたが相手選手の質の高いサーブとフォアに阻まれ敗退となりました。中国人選手の印象として大きな体を活かしたパワフルなプレーが多く、大事な場面でも臆することなく向かってくるようなプレーが多く、サービスエースやフォアハンドでラリーが終わるような展開が多々ありました。

2日目 VS 韓国 2-3 負け(シングルス 1-3 ダブルス 1-0)

前日の試合進行の状況から急遽ショートセットで行われるようになったり、天候の関係で屋外ハードから室内クレーにサーフェスが変わったりとアクシデントの多い試合でしたが、S2 の太田が勝利し、ダブルスでも篠崎・太田が接戦をものにし、日本チームが先に2勝しました。そこからの試合については両国ともに負けられない戦いであったため気迫のあるプレーが多く、見ていてとてもいい試合でした。特に2勝2敗で勝敗のかかった内田のシングルスはファイナルセットまでもつれ、国を背負った試合に相応しい内容でした。

3日目 VS 包頭 5-0 勝ち(シングルス 4-0 ダブルス 1-0)

中国で行う最後の試合ということもあり、各選手それぞれが高いモチベーションで臨むことができました。スコアは離れることが多くましたが、団体戦としていい形で試合を終えることができました。

競技会を通じて海外遠征で長時間の移動など不慣れなことが多く、また食事や文化に適応する力や語学力の無さなどを痛感する良い体験でした。選手たちにとってこれからテニス人生を考える良いきっかけになったのではないかと思います。可能であれば前後の大会の日程調整などを行っていただけすると今後より多くの選手がこの競技会に価値を感じてくれるようになるのではないかと思います。

最後に競技会直後に全日本ジュニアがある中で最後まで戦い抜いてくれた選手たち(篠崎、内田、義基、太田、川崎、後藤、石田、杉山)の8名に感謝するのと同時に今後日本テニス界を引っ張る存在になってくれることを期待しています。

第33回 日韓中ジュニア交流競技会に参加して

女子監督 田中希武

このたび第33回日韓中ジュニア交流競技会において女子日本代表監督を務めさせて頂き、何物にも代えがたい貴重な経験を得ることができました。選出頂いた全国高体連テニス専門部の先生方、運営に尽力下さった日本スポーツ協会や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、中国のレフェリーと忍耐強い交渉を担って頂いた岡本団長、日々メンバーと向き合い続けた男子監督の宇野先生、そして最後まで全力を尽くした選手の皆様に深く御礼申し上げます。



1. 競技面について

8月24日の中国戦は2-3で惜敗。体格差やサービス力に押される場面があったものの、選手達は最後まで諦めずに挑戦し続けました。加えて、新設のハードコート、見慣れない使用球(ODEA)、標高1,000mの環境は適応が難しく、短期間での順応力が強く求められました。

25日の韓国戦は前日の終了時刻を踏まえ、ショートセットに変更。午後からは降雨のため、屋外ハードから室内クレーへ変更される過酷な条件でしたが、気迫で戦い抜き3-2で勝利しました。

26日の包頭戦は5-0で快勝。疲れも出る中、集中力を維持して戦えたことは大きな収穫でした。三日間を通じて、悔しさも残りましたが、それ以上に選手の成長と可能性を強く感じました。

2. 生活面について

NTCでの事前合宿や羽田での快適な宿泊が、遠征初期の疲労軽減に大きく寄与しました。中国宿舎は広さは十分でしたが衛生面に課題があり、疲労に繋がる場面もありました。それでも選手達は前向きに生活を工夫し、現地で必要なものを調達、環境に適応していました。食事は現地特有の濃い味付けに戸惑いましたが、日本からのふりかけや捕食が支えとなり、心身を整える助けとなりました。

3. その他(準備・日程・学び)

競技規則について十分な擦り合わせが必要なことを痛感すると共に、洗濯や補食など細部の備えが重要であると感じました。競技以外の文化交流や観光を通じ、他国選手と語らう姿にはスポーツの力を感じました。選手たちの感想には「日本の環境のありがたさ」「体格差やサーブの重要性」「勝負所でのメンタル強化」といった率直な言葉が並び、この経験が確実に次の成長につながることを確信しました。

4. 今後への提案

- (1) 試合進行や試合形式を大会前に明確化し、交流試合として適切な運営を目指すこと。
- (2) 生活面の不自由に備え、日本食や捕食、衛生用品の準備を徹底すること。
- (3) 標高や気候、不自由さなど海外特有の環境を想定しておくこと。
- (4) 語学力を伸ばし、国際舞台で自らの意見を発信できる力を養うこと。

今回の遠征は、勝敗以上に「日本代表として挑む」意義を実感させてくれました。困難な環境に向き合い、成長した選手達を誇りに思うとともに、この経験を次代の日本テニス発展につなげてまいります。

第33回 日・韓・中ジュニア交流協議会に参加して

三重県立四日市工業高等学校 義基 耀

この度は、第33回日・韓・中ジュニア交流協議会に参加させていただき、誠にありがとうございました。大会を運営してくださった関係者の皆様、そして引率・監督をしてくださった岡本先生、宇野先生、田中先生に心より感謝申し上げます。

全国高校選抜テニス大会を経て、日本代表として本大会に臨みました。試合を通じて、中国・韓国両国のトップレベルの選手たちのフィジカルの強さや戦術の巧みさを肌で感じ、自分自身の課題を見つめ直す貴重な機会となりました。特に、ラリーの粘り強さや試合中の冷静な判断力において、自分にはまだ改善するところがあると感じました。

中国・韓国の強豪選手とのシングルスでは勝利を収めることができず、悔しさが残りましたが、彼らは同世代の選手です。今後またどこかの大会で再び対戦する可能性もあるため、その時に向けて、自分の強みをさらに伸ばし、弱点を克服できるよう日々の練習に励んでいきたいと思います。私はジュニアとしてもう一年活動できるので、今回得た経験と感覚を忘れず、今後の成長につなげていきます。

試合は悪天候の影響で、一部が予定されていた3セットマッチからショートセットに短縮されました。もう少し長くコートに立っていたかったというのが正直な気持ちです。

一方で、日本代表選手団との共同生活では、練習だけでなく食事や観光も共に楽しむことができ、非常に有意義な交流の時間となりました。みんなとも、今後世界のどこかのテニスコートで再会できることを楽しみにしています。

大会後にはフレンドシップ交流会が開催され、各国の選手たちと仲を深めることができました。ステージでダンスを披露するという余興もあり、これもまた一生の思い出となりました。また、交流会では英語が主なコミュニケーション手段として使われており、国際的な場での英語力の重要性を改めて感じました。

最後に、このような貴重な経験を与えてくださった日本スポーツ協会、全国高体連テニスの皆様、そして日本代表として共に戦ってくれたチームメンバーの皆さんに心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



日韓中スポーツ競技会に参加して

大分県立大分舞鶴高等学校 太田 周

まずは今回、日・韓・中対抗戦の日本代表に選んで頂きありがとうございました。過去に海外選手との対戦経験はありましたでしたが日本代表としてのプレーは今回が初めてでした。試合では、緊張で体が思うように動かず悔しい場面もありましたが、Japan の文字と日の丸を背負っている責任を実感し、勝ち切れる場面もありました。また、試合後に相手選手と握手を交わし、互いの健闘を称え合った瞬間は、国を超えてスポーツが人と人をつなげることを実感しました。勝敗以上に国際大会の舞台でプレーできたこと自体が大きな財産になったと感じています。また、この団体戦では、いつもと違う仲間と挑んだので部活とは全然違う雰囲気を感じました。今回のメンバーは明るい人が多く、リラックスして試合に挑むことができました。



交流面では、中国、韓国共に違う言語で話さなければならず、会話はなかなか難しかったですが、知っている単語を使い、コミュニケーションを図ることができました。

韓国や中国の選手は自分より体が大きく、パワーもはるかに上で、中国戦ではシングルス 2 に出させていただき、そのパワーに押されて、負けてしまいました。韓国戦からは、その負けを活かし、緩急をつけたり、作戦を変えたりして、すべての試合に勝つことができてよかったです。チームは 3 位という結果でしたが、世界で活躍するために、体を大きくして、パワーをつけ今以上に攻撃力を高めようといった課題も見つかりました。

最終日には日本のみんなと他の選手団の前で、出し物をして、最初は不安でしたが、みんなと一緒に練習して、会場を盛り上げられたのでよかったです。

今回の日・韓・中ジュニア交流協議会では、日本代表として戦ったり、海外の選手と交流をしたりとテニスやテニス以外のことでも多くのことを学びました。この貴重な経験をさせていただいた事に感謝し、これからも精進していきたいと思います。ありがとうございました。

英語力の大切さ

柳川高等学校 内田真翔

私は今回の日中韓交流会を通して沢山のことを学ぶことができました。

私が大きく学んだことは、英語力についてです。今回の試合の会場は中国、包頭市であり新しい経験を積むことができました。

英語が通じる人もいましたが、言葉が通じず翻訳を使うことでしかコミュニケーションを取ることができないといった問題もありました。

自分は今回選ばれたメンバーの中でも、コミュニケーションに関しては長けている部分もありましたが、しかしそれでも言葉が通じないことは沢山あります。スマートフォンがなければ生活ができないと感じることが多々ありました。

また中国の選手、韓国の選手たちと関わる中で英語を話すということは必須であり、海外で生活していく中で必要不可欠な要素になると今回の試合、交流会を通して特に感じました。また、審判に抗議をする際にも英語力は必須になると感じました。確かに今回の試合では中国での試合でアウェーといった状況もありました。しかし、言葉が通じないからといった理由で、抗議をしないことは試合をする上で大きな間違いであると考えています。

これから遠征や海外での試合の際には、さらに英語でのコミュニケーションを増やして行きたいと思います。



「日中韓・初の海外で学んだこと」

法政大学第二高等学校 篠崎勇仁

まず、大会関係者の方々、共に戦ったチームに感謝したいです。自分は今回の交流競技会が初めての海外遠征となり、不安な気持ちがありましたが、振り返るととても貴重な体験ができたと前向きに捉えています。また、自分の課題を改めて知る機会になりました。



中国へのフライト前にナショナルトレーニングセンターでの練習・宿泊をしましたが、メンバーのハイレベルなラリーに自分も食らいついでこうと必死に打ち合いました。食堂では食事内容を細かく表示したメニューがたくさんあり、自分もアスリートなのだと、テニスの向上に加え食生活への意識も高くなりました。

試合会場では他国の選手と友好な関係を築くことができました。チームには英語を話せるメンバーがいたので、英語をベースに話を広げていき、自分と年齢が近い他国の方との交流をすることでとても刺激になりました。これを期に、英語の習得にも力を入れたいと思いました。

現地の食事にはとても苦労しました。見たことのない料理を吃るのは少し勇気が要りましたが、それもいい経験になりました。なかには口に合わない選手も多く、ナショナルトレーニングセンターで学んだ食生活を全体的に実行できていませんでした。海外での試合はこういった食事や睡眠を最優先に考え、自分のコンディションを最高の状態に持っていくことが重要だということも学びました。

このように、この9日間で多くのことを経験し、人間としても少し成長できたと思います。初の海外ということもあり、イメージがついていませんでしたが、自分の視野も大きく広がりました。これからはよりグローバルな視点で物事を捉えていこうと思います。この交流競技会を自分の人生の大きな財産として今後の人生に活かして行きます。

日韓中ジュニア交流競技会に参加して

野田学園高等学校 川崎このは

まず、はじめに「日韓中ジュニア交流競技会」に参加させていただきありがとうございました。また引率してくださった、先生方を初めとして沢山の関係者の皆様、ありがとうございました。

私は今回の日韓中の交流試合を通してたくさんのこと学ぶことが出来ました。



テニスの面では、海外の選手と日本の選手では体つきがまったく違い、打っているボールの質などが劣っているように感じました。海外の選手に負けない体づくりはもちろん必要だと感じましたが、自分にしかできないテニス、自分の得意な部分をさらに伸ばしていくことをこれから頑張ろうと気づきました。

また今回開催された中国、内モンゴル自治区では食事や生活の面で初めは苦労しました。これから海外遠征などが増えていく中で、そういった普段とは違う生活にすぐに適応できる力もつけていかないといけないと感じました。そして、日本はご飯も美味しいくて全てにおいて綺麗で生活しやすい素晴らしい国だなと思ったのでこれから当たり前だとは思わず感謝の気持ちを忘れずに一日一日を過ごしていきたいと思いました。

最後に今回、初めて日本代表として戦わせていただいた普段の大会とは雰囲気の違った試合ができてすごくいい刺激になりました。また、いつもは別の学校で戦っている全国のトップの人達と一緒に過ごしたり、ダブルスを組ませていただいたり、ものすごく刺激を貰うことが出来ました。

今回の日韓中交流試合を通して学んだことをこれからも活かして頑張っていきたいと思います。また、参加させていただいた関係者の皆様、帯同してくださった先生方の皆様、本当に素晴らしい経験をありがとうございました。

第33回日韓中ジュニア交流競技会

大商学園高等学校 後藤七心

この度は日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただき、ありがとうございました。私はこれまでに何度か海外でテニスをした経験はありましたが、中国は初めてで当初はとても不安でした。しかし、日を追うごとに環境に慣れ、最後には充実した時間を過ごすことができました。

テニスでは、海外選手の多様なプレースタイルに触れ、自分にはない武器を持つ相手との対戦に苦戦しましたが、その中で自分の課題を見つけることができました。今後は今回学んだことを練習に取り入れ、さらに成長していきたいと思います。また、選手一人ひとりの個性や考え方にも刺激を受け、日本では得られない学びを得ることができました。

私生活の面では、文化や食事、街並みなど日本とは大きく異なる環境に身を置くことで、生活することの難しさや新鮮さを強く感じました。

さらに、日本代表として大会に出場するのは初めてでしたが、メンバーはいい人ばかりで、すぐに打ち解けることができました。フレンドシップ交流ではパフォーマンスを披露する機会もあり、貴重な経験を積むことができました。

最後に、引率してくださった岡本先生をはじめ、田中先生、宇野先生ありがとうございました。次にお会いする時には、より成長した姿をお見せできるよう努力していきます。本当にありがとうございました。



日中韓に参加してみて

神戸野田高等学校 石田実莉

今回、日中韓にテニスの日本代表として参加させていただきました。開催地は中国で、私にとっては初めての海外ということもあり、出発前は不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし、日本チームのメンバーはみんなとても優しくて面白くて、すぐに打ち解けることができました。フレンドシップ交流会でみんなと一緒にダンスを踊ったことはすごくいい思い出になりました。また、テニスの面でもとても刺激を受けました。自分にはないプレースタイルや考え方を持っている選手ばかりで、たくさん学ばせてもらいました。自分の課題がはっきり見えてきたことも、大きな収穫でした。



また、海外の選手たちと関わる中で、文化の違いや価値観の違いを肌で感じることができました。中国や韓国の選手とも仲良くなり、一緒に写真を撮ったり、身ぶり手ぶりで会話したりしたことは、とても楽しい思い出です。最初は戸惑っていた環境の変化にも、少しずつ慣れることができ、自分の適応力にも自信がつきました。

この大会を通して、テニスだけでなく、人としても大きく成長できたと思います。日本にいるだけでは得られなかった経験ばかりで、本当に参加できてよかったです。今回帯同してくださった岡本先生、田中先生、宇野先生、迷惑をかけてしまうこともたくさんあったと思いますが、本当にありがとうございました。またどこかで会ったときには、もっと成長した姿をお見せできるように、この経験を生かして毎日努力していきます。

日韓中ジュニア交流競技会 感想文

目黒日本大学高等学校 杉山 優那

初めに、日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。また引率してくださった先生方ありがとうございました。

私は海外で試合をすることは初めてだったので緊張していましたし、不安もありましたがとても良い経験になりました。中国チーム、韓国チームと試合をして感じたことはフィジカル面での差がかなりあるということです。日本人選手よりも中国人選手は大きく、その大きな体全体を使ってパワフルなショットを打ちます。私はラリーについて行くことで精一杯でした。また、韓国人選手は日本人選手とそこまで差がある体格ではなかったですが、自分が良いショットを打ってもさらに良いショットで返してきます。厳しいコースをついても体勢を崩すことなく打ち返してきます。技術面でもまだまだ足りないところはたくさんありますが、フィジカル面は特に鍛えなくてはならないと気づくことができたので、これからトレーニングで鍛えていこうと思います。



試合をするなかで、中国チーム、韓国チームと交流し、それぞれ違う言語を話すにも関わらずコミュニケーションを取ることができ、お互いが身振り手振りで伝え合い仲良くなることができとても嬉しかったです。英語を話すことができる選手が多く、英語で話しかけてもらえた時に私は英語で返すことができず、あまり話せなかったことが残念でした。今まで英語を勉強したいと思ったことはありませんでしたが、英語を話せるようになって様々な国の選手達と話してみたいと思うようになりました。

今回出場させていただいた日韓中ジュニア交流競技会ではたくさんのこと学ぶことができました。この経験を今後のテニス人生に活かしていきたいと思います。監督、引率の先生方をはじめ、チームの皆さん、遠征に関わっていただいた方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。